

2018年1月

年頭所感

日本アグファ・ゲバルト株式会社  
代表取締役社長 松石 浩行

## 印刷業界の最後の決め手は ワークフローの IoT 化

2018年明けましておめでとうございます。

旧年中は、弊社グラフィックス製品への格別のご愛顧を賜り、心より御礼申し上げます。

日本アグファ・ゲバルトは14年前に、業界で初めてケミカルフリープレート「アズーラ」を発売しました。その後、皆様のご支援の下、ケミカルフリープレートでは、毎年、販売を拡大し、昨年度も14年連続で、トップのシェアを獲得させて頂きました。このような多大なるご支援を頂戴できたのは、アズーラが、単なる環境対応のプレートであるということではなく、「独特の砂目構造によってもたらされる、速乾印刷という大きな特長」もその1つの理由かと考えます。アズーラによる速乾印刷は、損紙・パウダーの大幅削減、インキマイレージの大幅な改善等により、印刷現場に大改革をもたらし、全国の印刷会社で一大ブームを巻き起こしました。さらに、昨年は印刷現場のムダを無くすだけでなく、クライアントの印刷物のムダまでも無くそうという、株式会社吉田印刷所（新潟県五泉市）提唱の「フレッシュプリント」を推進・支援するために、主要PODメーカーであるコニカミノルタジャパン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、リコージャパン株式会社の賛同のもと「フレッシュプリントコンソーシアム」を設立いたしました。

このように、印刷現場のみならず、営業部門の変革も促し、業界を牽引してきたアグファですが、本年はその最終章ともいふべき、IoTによる印刷会社の大変革に挑戦してゆきます。具体的には、印刷会社における膨大なデータ処理の完全自動化・マルチ（オフセットとデジタル印刷機）処理・企業リスクの回避（天災・事故・ウィルス汚染等のBCP対策）を最大のテーマに掲げ、お客様のIT化を本格化させ、さらにIoT化へと道を開いてゆく所存です。

ここ数年のオフセット印刷機の進歩は、目を見張るものがあります。それは、デジタル印刷機の進歩をはるかに上まわっていると言っても過言ではありません。特にその自動化・高速化・IoT化は、極小ロット・多品種印刷に対応し、デジタル印刷機の能力も凌駕しつつあります。まさにオフセット印刷機の逆襲ともいえる現象です。しかし、その前工程であるデータ処理はどうかと言えば、相変わらず、多くの人材を抱え、面付け、データチェック、そして、肥大化するデータ管理のためのサーバーシステムの増設、その

管理・運営コストの上昇等は経営を圧迫し、今や印刷会社にとって最大の懸念事項 になっていると言えます。この問題をどう断ち切るのか？どう解決したら良いのでしょうか？

アグファの答えは、「ワークフローのクラウド化」ということに至りました。

つまり、RIP 処理のためのシステムやサーバーを自社内で持たないことです。これらを安全かつ、極めて強固なウィルス対策を施されたクラウド環境へ移行することが最善の方法なのです。クラウド上に顧客データを保管し、さらに面付け・RIP 処理も全てクラウド上で行うことで、いつでも、どこからでも、安全にアクセスできるようになり、肥大化する経営コストを劇的に節約できるのです。それによって、クライアントはもちろん、自社内同士でも時間と場所を問わず、ストレスなくコミュニケーションが取れるようになります。さらには、雇用の観点からは、完全フリーな在宅勤務・サテライトオフィス化を実現します。

クラウド化によって、印刷会社は、システムの入替えや高価なバージョンアップなどの巨額なコスト負担、又は、ウィルスやシステムダウンなどの恐怖から、ようやく解放されるのです。

その結果、データ処理やシステム管理に要していた優秀な人材を、より収益に貢献する仕事へ再配分が可能となります。

2018 年以降、日本の印刷業界に待ち受けているのは、製造業に於ける労働力不足です。それは印刷受注の減少どころの問題ではありません。この問題を解決するには、IoT 化による人的再配分と、働きたいが働けない人々の雇用を実現しなければなりません。これはそのまま企業のダイバーシティ対策にも直結する問題なのです。

印刷業界にとってクラウド化を含めた、IoT 化は、印刷業界が、真の意味での近代的なファクトリーオートメーション化へ踏み出せる、大きなチャンスと言えます。

アグファは、これまでの 30 年間、DTP 化、PDF 化、ワークフローの自動化、リモートプルーフ、ケミカルフリープレート等、業界に最先端技術を提唱、先陣を切って紹介して参りました。今後もこの姿勢を守り、アグファのユーザー様が、本年も業界の先頭に立ち一歩も二歩も先へ進まれることに全力でサポートして行く所存です。

最後になりますが、本年も皆様のご多幸とご繁栄と、ますますの良い年になりますよう祈念し、私の新年の挨拶とさせていただきます。